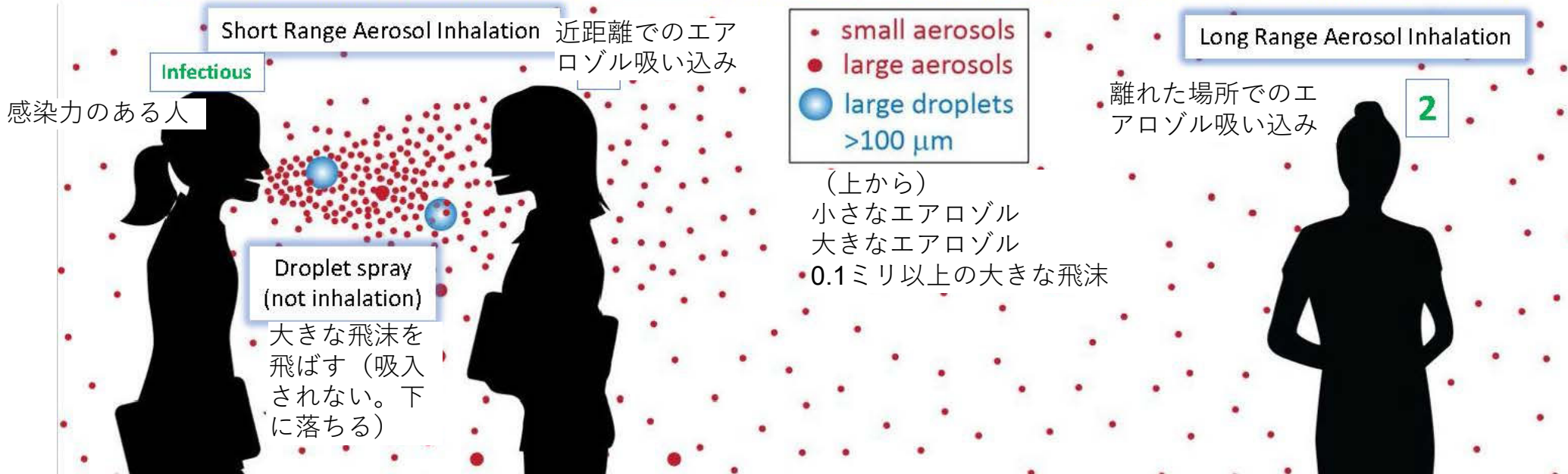


空気を介した新型コロナウイルスの感染 (訳者注: British Medical Journal (2021/4/14) でも指摘されているが、従来の医学の飛沫/空気感染の定義が曖昧。実際の計測から、会話や呼吸だけで、空中に浮遊・蓄積する大きさのエアロゾルが大量に排出されることは明らか。エアロゾルに対し、すぐ落ちる大きな飛沫は少数しか排出されない。つまり、近距離で起きた感染もエアロゾルによるものと考えるべき (Lancet, 4/15)

Airborne Transmission of SARS-CoV-2

Tang, J. W.; et al, Dismantling myths on the airborne transmission of SARS-CoV-2. *Journal of Hospital Infection* 2021, 110, 89-96. (Graphic by Dr. Linsey Marr)



Speaking, singing, breathing [coughing/sneezing] produce **many more aerosols than droplets at close range**

近距離の場合、話す、歌う、呼吸する (咳、くしゃみも) ことで、大きな飛沫 (0.1ミリ以上) よりもずっと大量のエアロゾルが生じる。

Aerosols (<100 μm) can **float (smoke)** and accumulate in room for hours

Droplets (>100 μm) **drop (cannonballs)** w/in 6 ft

エアロゾル (0.1ミリ以下) は空中を浮遊し (煙状のもの)、数時間にわたり、屋内で滞留・蓄積していく。
飛沫 (0.1ミリ以上) は、6フィート (1.8メートル) 以内に落ちる (弾丸のようなもの)。

Dismantling myths on the airborne transmission of severe acute respiratory syndrome coronavirus (SARS-CoV-2), 2020/12/23)
英国、米国、オランダ、イタリア、エストニア、中国、シンガポール、オーストラリアの研究者が共同で書いたもの。ここに日本の研究者が一人もいないという事実も注目に値する。